

平成30年度 学生海外研修報告書 (担当教員)

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名: 農学系/教授

氏 名: 寺岡 行雄

授業科目名	国際森林論
研修先(国・地域) 滞在地	ロッテンブルク林業大学(ドイツ・バーデンビュルテンベルグ州)
研修期間	平成30年9月16日～平成30年9月25日
<p>〔研修の成果〕</p> <p>国際森林論という農学部開講科目として、ドイツのロッテンブルク林業大学での研修を行ってきた。まずは参加者全員がトラブルもなく無事に研修を終え、帰国できたことが良かったことである。昨年度全学協定校となったロッテンブルク林業大学での研修は、今年で8年目となり、本学からの研修参加学生は76名となった。ロッテンブルク林業大学ハイン教授の献身的な支援により、本研修は継続実施されてきたことに感謝している。さらに、本学からの海外学生研修に対する支援、農学部からのバス代等旅費の支援がなければ、実施することは困難であった。併せて感謝したい。</p> <p>ロッテンブルク林業大学での研修は、先方からの大学の説明を頂いた後、寺岡から日本林業事情の講演を行い、相互の理解を深めた。大学に隣接する演習林で、枝打ち技術、森林土壌、広葉樹林施業等の現地講義を受けた。また、バーデンビュルテンベルグ州内を貸し切りバスで移動し、様々な森林や施設の見学も行った。伐採作業現場では、大型の林業機械による生産を間近で見学することができた。黒い森地域の山間部に位置するモミ材の製材工場では、日本向けの卒塔婆やカマボコ板が作られていた。ここではバイオマス発電と地域熱供給も行っており、工夫次第で地域の資源を使った収益性の高いビジネスが展開可能であることを実感できた。住宅メーカーを見学し、日本と違う断熱性の高い住宅の構造や、工場でパーツを作り、現場での組み立てが1日で終わる住宅建築のあり方を学んだ。シュツトガルトに移動してからは、世界トップのチェンソーメーカーとして知られるStihl社の工場を見学できた。無人の資材搬送ロボットが動き回り、様々なタイプのチェンソーを効率的に生産する製造工場は、農学部の学生にとって新鮮な体験であった。最終日に行ったシュツトガルト市有林と森林環境教育施設の見学では、森林に対するドイツ人の価値観を知ることができ、日本との違いを考えるきっかけとなった。また、日本人でありながらドイツでの林業技能員学校を卒業し、現在市有林で勤務している方からのお話を聞く機会があり、学生にとって違った視点を得ることができた。</p> <p>若い世代で海外での体験は、その後の人生へ少なからず影響すると思われる。学生からの研修レポートからもドイツでの研修から多くの刺激を得たことが読み取れる。外国を知ることで、むしろ日本や自分の地域を意識し、価値観、習慣あるいは文化の違いから自分を見つめ直すきっかけを得たことがレポートに綴られている。</p> <p>本研修は全学協定となったことを受け、従来の農学部の学生だけでなく、工学部建築学科の学生3名も参加した。さらに、鹿児島、岩手、信州、愛媛、宮崎、慶応の6大学と岐阜県立森林文化アカデミーからの教員と学生で総勢61名が参加した。学生の宿舎は1泊30ユーロ程度の修道院の宿泊施設やユースホステルであり、異なる大学の学生間での交流も大いにあった模様である。異なる地域や環境で暮らす同世代の友人関係を作れたことは、学生の視野を広げ、意識の変革につながったのではないかと期待している。</p> <p>本研修を終え、数ヶ月の短期留学を志す学生も出てきており、今後益々の交流が深まって行くことを期待される。</p>	

平成30年度 学生海外研修報告書 (担当教員)

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名: 農学系/教授

氏 名: 寺岡 行雄

授業科目名	国際森林論
研修先(国・地域) 滞在地	ロッテンブルク林業大学(ドイツ・バーデンビュルテンベルグ州)
研修期間	平成30年9月16日～平成30年9月25日
<p>〔今後の課題〕</p> <p>ここ数年就職環境が良いことから大学院生が減ってきており、学部生中心の受講となっている。学生個々人の性格もあるが、専門分野の知識量および英語力が不足気味であり、ドイツの先生が行う講義や実習への参加の姿勢は満足できるものではなかった。今回の研修が切り替えるきっかけとなっていることは、学生のレポートからも読み取れるが、きっかけは研修参加以前に作っておくべきである。説明や事前学習もそれなりの内容と時間で実施したのであるが、学部生に対してはより丁寧に時間をかけて事前学習を行う必要性がある。</p> <p>本研修では、学生の安全確保のために、連絡手段確保として海外無線Wifiの携帯を義務づけた。学生と引率教員はSNSのLINEにより、常に情報交換を行う体制としていた。外務省の海外安全アプリへの在外大使館・領事館からの情報は有益で、デモの発生などを事前に知ることができる。一方でアイファインダーは、紛争状態やテロの発生でなければ、何も情報提供や連絡をしてくれるものではなく、また、これは学生が常にメールを受け取れることを前提としており、契約する意義を見いだせない。アイファインダーの契約する予算を、学生の海外無線Wifiルータのレンタル費用に充てる方が、有意義である。グローバルセンターあるいは各部局の学務担当部署とSNSによる連絡体制を作る方が実効性は高い。</p>	